港灣振興便以內

2011.12

第56号

1 ポートエッセイ 「ソウルで感じた新しい風」

日本港湾振興団体連合会会長 篠田昭

- 2 トピック
- ◆みなとまちの地域づくりについて考える「みなと座談会」が開催されました!

北海道開発局港湾計画課

◆酒田港ポートセミナー開催!!

酒田市 商工観光部 商工港湾課

おおい

◆「うみんぴあ大飯」が"みなとオアシス"に認定されました!

福井県大飯郡おおい町商工観光振興課

◆金沢港セミナーを大阪で開催しました!

社団法人 金沢港振興協会

◆三河港の情報発信基地「カモメリア」のペイントデザイン完成

豊橋市 産業部 港湾活性課

◆「全国アマモサミット2011開催」 ~アマモ場再生の輪を広げよう~

近畿地方整備局 大阪港湾 · 空港整備事務所

◆三池港航路供用式典開催

九州地方整備局 博多港湾 · 空港整備事務所

::*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:

1 ポートエッセイ「ソウルで感じた新しい風」

日本港湾振興団体連合会会長 篠田昭

::*:*:*:*:*:*:*:*:*:

先月、ソウルで開かれたユネスコ創造都市ネットワーク会議に参加した。ユネスコは音楽や映画など7つの分野で創造的なまちづくりを進めている都市を創造都市に認定し、ネットワークを広げようとしている。日本からは名古屋、神戸がデザインで、金沢がクラフトで登録されている。

今回は新潟と鶴岡が食文化(ガストロノミー)、浜松が音楽、札幌がメディアアートの分野での登録を目指し、それぞれの市長がプレゼンした。

会議では、創造都市が世界の大きな流れになっていると感じた。世界経済が行き詰まり、人口爆発の中で地球環境と食料の危機が現実味を増しているいま、先進的な都市は環境に配慮した持続可能なまちづくりを「創造性と想像力」に求めている。

ソウルはデザインで創造都市に認定され、まちのあちこちでユネスコ創造都市のロゴが踊っていた。韓国では、創造力のある人材を確保するため、アーティストをまちなかに住んでもらう優遇策が競われている。

この時期、ソウルではパク・ウォンスン(朴元淳)市長が選任され、新しい挑戦が始まっていた。前市長が大きな文化施設などを建設する「漢江ルネサンス」事業を推進したのに対し、ソーシャル・デザイナーと呼ばれるパク市長は絆を大切にし、「共に暮らす村コミュニティー」の方向を大都市で目指している。

日本では政治が混迷し、大震災からの復興もままならぬ状況なのに比べ、新しい風とダイナミックな変化を感じるソウル訪問だった。

::*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:

2 トピック

◆みなとまちの地域づくりについて考える「みなと座談会」が開催されました!

北海道開発局港湾計画課

10月25日に函館市の「水産物地方卸売市場」において、北海道みなとまちづくり女性ネットワークと、NPO法人北海道みなとの文化振興機構の共催により「みなと座談会」を開催しました。

本座談会は、地元でまちおこし等で活躍されている方々と女性ネットワークの会員を交えて、まちおこし活動の状況や課題等について意見交換を行い、今後のみなとまちの地域づくりについて考えることを目的とし、平成 16 年より毎年1回、道内各地の港町で開催されています。

第8回となる今回は、道内各地の女性ネットワーク会員を中心に約 40 名が参加しました。地元の函館をはじめ、室蘭、苫小牧、留萌、稚内、紋別の各地の代表から日頃の活動報告が行われ、

続いて行われた意見交換では、「食育を通じて人づくりや地域づくりに活かしてはどうか」、「今回の大震災を踏まえ津波防災対策について考えてほしい」、「みなとオアシスに登録したいがどのような手続きが必要か」など活発な意見が交わされ、大変有意義なものとなりました。



「みなと座談会」の様子

◆酒田港ポートセミナー開催!

酒田市 商工観光部 商工港湾課

山形県、酒田市、酒田リサイクル推進協議会などが主催する酒田港ポートセミナーが、 去る 11 月 17 日木曜日に山形市で開催されました。これまで東京、仙台市、酒田市などで 開催しており、今回は山形県内陸地域・仙台圏の企業の酒田港利用拡大を図ることを目的 に2年ぶりに山形市での開催となります。主催者あいさつの後、東北地方整備局梶原康之 副局長より来賓挨拶をいただきました。

セミナーには、官民港湾関係者をはじめ多くの企業が参加し、県港湾空港課から 11 月 11 日に発表があった「日本海側拠点港」にリサイクル貨物の分野で選定されたことなどが説

明され、LCL サービスの展開について、現在、酒田港を利用している企業を代表して菓子製造販売の株式会社でん六、ノイズフィルターコイルを製造している株式会社ウエノから利用状況について報告等が行なわれました。

その後、環日本海経済研究所吉田進名營理事長より「日本海対岸諸国の情勢と日本側港 湾の可能性」と題して講演いただき、対中国、対ロシア貿易の展望を紹介いただきました。



【来賓挨拶 梶原副局長】



【報告を行なう㈱ウエノ 上野社長】

◆「うみんぴあ大飯」が"みなとオアシス"に認定されました!

福井県大飯郡おおい町商工観光振興課

〇「おおいうみんぴあフェスタ2011」を開催!

昨年までの「産業まつり」が名称を変更し、うみんぴ あ大飯で盛大に開催されました。先着500人に振舞 われたカニ鍋や魚介類、若狭牛、キノコなどの直売コ ーナー、お笑い芸人らによるステージショーなど多彩 な催しで、連日たくさんの人で賑わいました。(11月1 2~13日)

「うみんぴあ大飯」は、和田港の小浜湾に面した内港の尾内地区に、県・町・第3セクターにより滞在型の観光施設として整備され、平成

21年8月にグランドオープンしました。施設は、緑地、



うみんぴあ大飯

マリーナ、ホテル温浴施設、総合駐車場、長井浜海水浴場などからなり、若狭湾の海洋観光拠点として、港を核とした地域振興として期待されています。





「うみりん」がお出迎え 親子連れで賑わう会場

※うみんぴあ大飯ホームページ: http://www.uminpia.com/

〇「みなとオアシス」に認定!

イベント開催前のセレモニーで、うみんぴあ大飯が国土交通省北陸地方整備局より、みなとオアシスに認定され登録証の交付式が執り行われました。

交付式は「おおいうみんぴあフェスタ2011」オープニングセレモニーの中で行われ、北陸地方整備局東山次長が「みなとオアシス制度を十分活用され、益々地域発展に繋がることを祈念申し上げたい。」と挨拶し、登録証を時岡おおい町長に授与されました。 「みなとオアシスうみんぴあ大飯」は、全国58番目、北陸地方整備局管内で7番目、福井県内では、みなとオアシス敦賀に次ぐ2番目の登録です。 今後おおい町では、地域活性化の取組みとして、当該施設を全国にPRし昨年約30万人の来場者を

40万人に伸ばす目標としています。







北陸地方整備局東山次長より登録証の交付

詳細は、下記のホームページでも紹介されています。

※みなとオアシスホームページ(北陸地方整備局港湾空港部)

http://www.pa.hrr.mlit.go.jp/minato-oasis/toppage.htm

◆金沢港セミナーを大阪で開催しました!

社団法人 金沢港振興協会

平成 23 年 11 月 29 日(火)、ホテル阪急インターナショナル(大阪市)において、金沢港セミナー を開催しました。

このセミナーは、金沢港の利用促進を目的に、主催:(社)金沢港振興協会、共催:国土交通省 北陸地方整備局金沢港湾・空港整備事務所、後援:石川県、金沢市、金沢商工会議所、(株)金沢 港運により開催され、大阪周辺の船社、物流事業者、荷主など前回の 2 倍近くの 60 社(110 名) が参加しました。

冒頭、主催者である(社)金沢港振興協会の北村副会長から「金沢港は、11月11日に日本海側拠点港に選定されたが、今後ともこうした国の港湾制度を効果的に取り込み、関係者が連携してサービス向上に取り組むので、利用の検討をお願いしたい。」と開会の挨拶を行いました。

続いて、以下についての説明がありました。

- ○金沢港のサービス・施設概要について(石川県)
- ○金沢港大浜国際物流ターミナル整備事業について(金沢港湾・空港整備事務所)
- 〇金沢市の工業団地について(金沢市)
- ○金沢港の荷量の推移とサービス概要について((株)金沢港運)
- 〇コマツの金沢港活用の状況について(コマツ粟津工場)

なかでも、コマツ栗津工場からは、工場で生産された機械が金沢港を利用する割合が、コンテナ 貨物では、2007年の15%から2011年には96%に達する見込みであることなど、地元港湾を利用す る効果と企業戦略について荷主の立場から説得力のある説明がありました。

最後に、金沢港湾・空港整備事務所 水口所長から「金沢港は、関係者が連携しつつ各々の立場から利便性向上に努め、着実にその成果が現れており、サービスと利用がスパイラルアップしている状態にある。今後とも皆様の更なる利活用をお願いします。」と閉会の挨拶を行いました。



開会挨拶をする北村副会長



金沢港セミナー会場の様子

◆三河港の情報発信基地「カモメリア」のペイントデザイン完成

豊橋市 産業部 港湾活性課

平成23年12月3日(土)、豊橋市役所は、三河港神野ふ頭にあるポートインフォメーションセンター「愛称:カモメリア」において、外壁ペイントデザイン完成式典を開催しました。

カモメリアは、三河港を広くPRすることを目的に、平成17年7月に開館し、小学生の校外学習を始め、市内外の多く人々に利用されていますが、今般、よりわかりやすく親しまれる施設とするため、外壁に描くデザインを募集したところ、一般部門で33点、小学生部門で29点の応募がありました。

ペイントデザインされた両部門の最優秀賞 2点は、"三河湾を優しく包みこむカモメをモチーフにした作品"と"三河港の象徴である自動車船を中心とした作品"で、その他、優秀賞 4点、特別賞 1点の受賞者に対し、表彰状と記念品が贈られました。

最優秀賞の二人は、市内の小学 6 年生と中学 1 年生で、「発表の時はうれしくて泣いてしまった」等と語り、家族と共に受賞の喜びを分かち合っていました。

豊橋市役所では、今後も、様々な取組みを通じて、カモメリアの認知度を高め、三河港の更なる 情報発信を図っていきたいと思います。



ポートインフォメンションセンター: カモメリア

◆「全国アマモサミット2011」開催 ~アマモ場再生の輪を広げよう~

近畿地方整備局 大阪港湾 空港整備事務所

「アマモ」とは、砂地に生息する海草で、アマモが密生する場所は魚たちの保育場・産卵場となっていることから「海のゆりかご」と呼ばれ、魚たちの生息場所として大変重要な役割を果たしています。

「全国アマモサミット2011」は、日本各地の干潟・浅場等沿岸域でアマモ場の再生、保全活動を行っている市民、NPOやそれらに関係する行政機関等が一堂に会するシンポジウムで、横浜・松江・指宿と続き、平成23年11月20日(日)に第4回目が大阪の海遊館ホールで開催されました。

当日、約200人の参加者が集まる中、講演・パネルディスカッションでは、大阪湾をはじめとする沿岸海域の生き物たちにとっての「アマモ場の現況と役割」を知ってもらい、また「アマモスケッチの展示と塗り絵コーナー」ではイラストレーター・福井美香さんの下絵で子どもたちが楽しそうに塗り絵をするなど、アマモや海の環境について楽しく知ってもらう事ができました。

サミットを通して、一人でも多くの人たちに、今後のアマモ場再生活動など海の環境改善の活性 化と輪の広がりを期待したいと思います。

□全国アマモサミットHP: http://www6.ocn.ne.jp/~a-summit/



NPOや市民団体のパネルディスカッション



塗り絵コーナーの様子「アマモって何?」

◆三池港航路供用式典開催

九州地方整備局 博多港湾 空港整備事務所

平成23年11月3日に福岡県大牟田市の三池港で航路(-10m)の供用式典を挙行しました。 三池港は有明海の湾奥部に位置し、干満差が激しく船舶の入出港に支障をきたしていました。本 事業により、航路水深 7.3m から水深 10m への増深が完了し、潮待ちがなくなり大型船舶の入港が可能となるものです。なお、航路浚渫工事は終了しましたが、今後は埋没対策など航路の機能を維持していくために必要な対策を進めてまいります。

式典では、小川福岡県知事から「三池港の機能は各段に上がった。九州・アジアを結ぶ重要な物流ネットワークとなることを期待している」と挨拶がありました。

また三池港では、港湾管理者(福岡県)による泊地浚渫や荷役機械の増設など港湾機能の高度化が図られるとともに、大牟田市と佐賀県鹿島市までを結ぶ有明海沿岸道路の整備も同時に行われており、港と道路の連携により地域経済の活性化が期待されております。



だいじゃやまばやし 『大蛇山囃子を披露する園児』

::*:本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先:*:*:*:

日本港湾振興団体連合会事務局

〒105-0002 港区愛宕 1-3-4

TEL:03-5776-0630 FAX:03-5776-0631

e-mail: <u>bcf06323@nifty.com</u>

::*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*: